

(Ⅳ - 1) 幹線道路沿道の実態に関する研究

長岡技術科学大学大学院 学生員 ○古俣直紀

長岡技術科学大学 正会員 松本昌二

長岡技術科学大学 正会員 中出文平

長岡技術科学大学大学院 学生員 中道弘之

1. はじめに

近年におけるモータリゼーションの進展は、生活行動の変化に留まらず、商業施設の形態にまで変革をもたらす結果となった。これまで商業施設は都市中心に集積立地されていたが、現在は比較的郊外の幹線道路沿いに大型の店舗と大型の駐車場を備えたいわゆる郊外沿道型商業施設（以下、ロードサイドショップとする。）が目立つようになった。本調査は、このような傾向を踏まえ近年進出がめまぐるしいロードサイドショップの実態について調査・解析し、周辺環境へ与えるインパクトについて明らかにしようとするものである。対象地区としては、新潟県内の主要道路のうち国道8号、国道116号及び主要地道新潟笹口線に注目し、その中でロードサイドショップを形成している6地区を選定した。図-1に本調査の対象地区を示す。

2. ロードサイドショップに多い業種

対象地区における商業施設の種類の、パチンコ店、レストラン、スポーツ用品店など、業種的にも車による買物客を対象としたものが多かった。表-1はロードサイドショップに多いと考えられる商業施設について、対象各地区内での調査結果をまとめたものである。

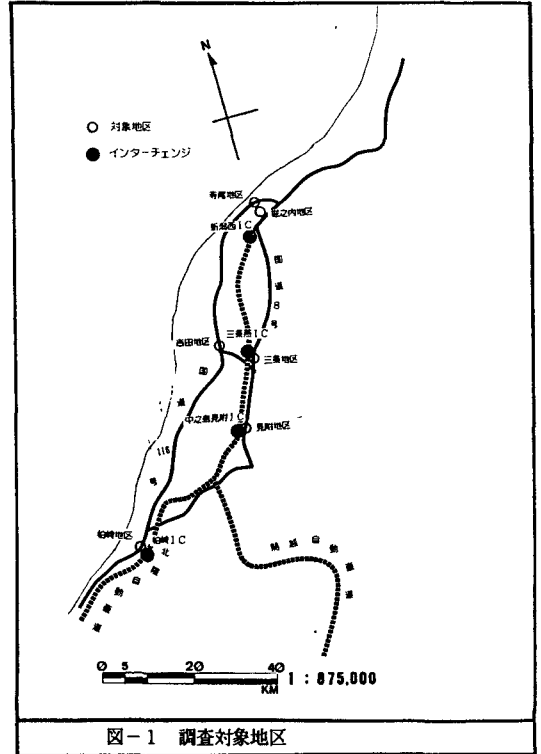


図-1 調査対象地区

表-1 対象地区内商業施設

	三条市	吉田町	見附市	柏崎市	寺尾	堀之内
レストラン	3 (18)	10 (31)	5 (33)	5 (29)	6 (30)	7 (27)
スポーツ用品店	1 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (5)	0 (0)
自動車販売店	6 (35)	0 (0)	1 (7)	1 (6)	2 (10)	3 (12)
衣料品店	1 (6)	3 (9)	1 (7)	1 (6)	2 (10)	0 (0)
給油取扱所	1 (6)	1 (3)	1 (7)	3 (18)	0 (0)	0 (0)
パチンコ店	0 (0)	2 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (4)
日用雑貨	2 (12)	3 (9)	2 (13)	2 (12)	4 (20)	3 (12)
レンタル業	1 (6)	1 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他の商業	2 (12)	3 (9)	5 (33)	5 (29)	5 (25)	12 (45)

() 内は対象地区内での構成比を表す。

3. 対象地区の周辺状況

対象地区の位置は新潟市の吉田地区、堀之内地区を除き高速道路インターチェンジと極めて近い位置にあった。各対象路線においてはインターチェンジへのアクセス道路であることから、道路整備が進んでおり、各地区対象路線すべてが、12m以上の幅員を有していた。このアクセシビリティの高さは、車による買物客を対象とした施設にとって大変優れた立地条件にあるといえる。また、対象各路線の交通量についても当該路線が幹線であることを示している。施設裏側については、対象地区が郊外であるので、水田あるいは農

表-2 対象地区周辺状況

	三条市	吉田町	見附市	柏崎市	寺尾	堀之内
対象地区隣接路線	国道8号	国道116号	国道8号	国道8号	国道116号	主要地方道
対象地区道路幅員	18.9(m)	15.8(m)	30.0(m)	12.3(m)	15.8(m)	13.3(m)
24時間交通量	18,663	11,374	16,194	16,586	13,661	13,320
施設周辺利用状況	水田	水田	水田	水田	住宅	住宅
対象地区用途指定 (対象地区一部)	準工業 (商業)	指定無し	住居地域 (準工業)	住居地域	住居地域	住居地域 (近隣商業)
対象地区建築率	22.7	14.7	15.4	30.5	26.9	29.5
対象地区道路率	18.1	13.5	24.9	21.7	20.5	20.8

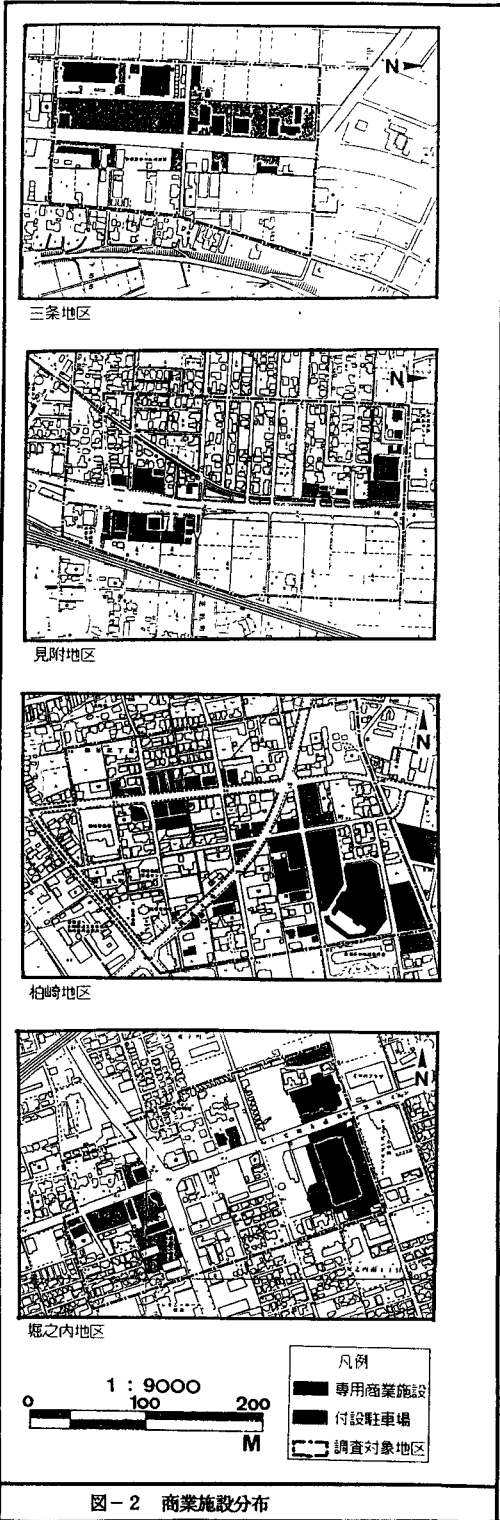
地となっている例が多かった。用途地域については、指定のない吉田町を除き住居地域、準工業地域など商業系と異なる地区が大半を占めていた。建蔽率・道路率については、柏崎、堀之内地区のようにその値が市街地と類似している例や、吉田地区のように幹線道路のみが整備され周辺の市街地の遅れが現われている例が見られた。表－２に対象地区周辺状況を示し、図－２に対象地区の商業施設分布を示す。

4. 周辺環境へ与える影響

表－３は各調査対象地区における現況問題点を示したものであるが、出入口における交通混雑、交通安全施設の不足、看板による景観の悪化、交通環境の悪化などが悪影響として顕著にあげられている。

表－３ 現況問題点

	問 題 点
三 条 市	・大型車走行による振動、騒音が激しい。 ・乱立する看板、電柱が景観を乱している ・商業施設入口において、自動車の混雑が見られ、適切な制御が必要である。 ・施設の出入口において、混雑が見られる
吉 田 町	・大型車走行による振動、騒音が激しい。 ・乱立する看板、電柱が景観を乱している ・ガードレール、歩道など、歩行者に対する安全施設に不備がある。 ・老朽化した工場、およびそこからと思われる投棄物が目立つ。
見 附 市	・ロードサイドショップが連続性を欠いている。 ・施設やその看板に、高さ、色彩の統一性がない。 ・将来的に発生する交通量が多い、交通容量の不足が予想される。
柏 崎 市	・ガードレールなど、歩行者に対する安全施設に不備がある。 ・完成した工場が、景観を乱している。 ・不整形な交差点がアクセシビリティを低下させている
寺 尾 地 区	・朝夕の交通渋滞が顕著に見られる。 ・バス停留所の設置部に幅がされておらず、ボトルネックとなっている。 ・ガードレールなど、歩行者に対する安全施設に不備がある。
堀 之 内 地 区	・朝夕の交通渋滞が顕著に見られる。 ・交通渋滞の解消策としてバスレーンの設置が望まれる。 ・歩道内に電柱があるなど歩行者に対する配慮に欠ける。 ・搬入者による路上駐車が顕著であるため荷捌きスペースの確保が望まれる。



図－２ 商業施設分布

5. まとめ及び今後の課題

本調査における対象ロードサイドショップの実態を以下に示す。①施設隣接道路は幅員の十分な幹線である。②比較的アクセシビリティの高い位置にある。③施設周辺は農地である例が多く、今後の市街地形成への影響が懸念される。④地域に与える悪影響として、景観の悪化、交通に起因する環境の悪化があげられる。今後の課題として、形成要因や既存商店街へのインパクトについて明らかにしていく必要があると考える。